安全願う広い歩道、光学区が渡り初め

2代目 草戸大橋開通

幅4mもの歩道を持つ全長368mの草戸大橋が、先月30日開通。24日に地元の光学区が渡り初めをした。

消防音楽隊の先導に続いて三世代家族や一般参加者など約800人が渡り初め。橋の上からの景色を楽しんだりすぐ下に栄えた草戸千軒はこのあたり？と眺めたり

光学区

新草戸大橋開通にあわせて交通を切り替え、1932年(昭和7年)に完成した初代草戸大橋は、90年の役目を終えた。

渡り初めでは、主催する光学区まちづくり推進委員会の花谷忠厚委員長が「通学や通行の安全性が高まり、渋滞が減る。洪水時の避難にも安心して使え、学区民一同嬉しく思っている。年度当初から企画し、これだけのイベントに拡大したのも地域のみんなの力」と喜び、挨拶した。初代の欄干は一部は、後世に残す予定という。毎日この橋を通学に使う森近ひなのさん(6年)は「これまでは自転車とすれ違う時など怖かったけれど、今度は幅が広くて安心。魚も鳥も見えて高さもちょうどよく、渡っていて気持ちいい」と、とても嬉しそうだった。

新しい草戸大橋は、建設が進む福山沼隈道路の側道橋にあたる。

＊動画や他の写真は下のQRから

光学区消防クラブの鼓笛演奏後にテープカット